

地理歴史科・公民科（公共）学習指導案

1 単元名 公共的な空間における人間としての在り方生き方
この単元は、「2 内容」の「A 公共の扉」の「(1) 公共的な空間を作る私たち」に該当する。

2 単元目標

- (1) 自らの体験などを振り返ることを通して、人間としての在り方生き方について理解するとともに、他者を尊重し対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合おうとする態度を身に付ける。
- (2) 他者との協働を通して、当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多角的・多面的に考察し、表現する。
- (3) 公共的な空間における人間としての在り方生き方などについて、よりよい社会の実現を視野に現代の諸課題を主体的に追究する。

3 単元計画（全体3時間）

(1) 指導計画

- ・ 青年期と自己形成の課題 1時間
- ・ 個人の尊厳と社会の存在としての人間 1時間
- ・ 伝統・文化の中の人間 1時間（本時1／1）

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自らの体験などを振り返ることを通して、人間としての在り方生き方について理解している。 ・ 他者を尊重し、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合おうとする態度を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多角的・多面的に考察し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共的な空間における人間としての在り方生き方などについて、よりよい社会の実現を視野に現代の諸課題を主体的に追究している。

(3) 指導内容及び評価計画

（○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」）

次	学習内容	ねらい・学習活動	評価の観点			(B) 具体的 評価規準 (C) 具体的支援	評価方法
			知	思	態		
第1次 (1)	【学習課題】〈単元を貫く問い〉 「よりよく生きるとは、どういう在り方なのか？」				●		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自我の目覚め ・ アイデンティティの確立 ・ キャリア開発 	【ねらい】 青年期の特質を理解し、自己の特性に気付き、自己の在り方生き方を構想する。 ・ 青年期の特徴を理解し、よりよく生きる自己の在り方について考察する。				(B) 自己の在り方生き方について幅広い視点から構想している。 (C) 記述された内容について肯定的・受容的なコメントを付して気付きを支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート①の振り返り記述を基に評価する。

第2次 (1)	<p>【学習課題】「自分や他人を尊重するとはどういう生き方なのか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古代ギリシア思想 ・世界三大宗教 ・近代西洋思想 ・現代思想 	<p>【ねらい】 個人の在り方生き方や自由・幸福などについて思索した先哲の思想を概観し、人間の存在について基本的な見方・考え方を習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共的な空間において他者とのよりよい関わりについて思考実験を基に考察する。 	● ●	<p>(B) 自己の考え方や他者との関わりについて多面的・多角的に思索を深めている。</p> <p>(C) 考察したことを全体発表させ、新たな視点や考え方について助言する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート②の<考察>の記述内容を基に評価する。
	第3次 (1)	<p>【学習課題】「日本人のものの見方や考え方はどのように形成され、自分はどう生きるべきなのか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古来日本人の考え方 ・仏教の広まり ・江戸時代の思想 ・明治以降の思想 	<p>【ねらい】 日本人の自然観や死生観、道徳観などを理解し、伝統や文化とどう関わるべきかを踏まえながら、日本人のよりよい在り方生き方を考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本人のよりよい在り方生き方を先哲の思想を手がかりにグループで協働して構想し、全体に発表する。 	●	4 (3) 参照
<p><評価> 日本のものの見方や道徳観、先哲の思想を踏まえ、日本人としてこれからどうあるべきか構想させ、全体発表の様子や振り返りの記述を基に評価する。</p>					

4 本時の指導と評価の計画

(1) 本時の目標

先哲の思想を手がかりに日本人のよりよい在り方生き方を構想し、グループで協働して表現している。

(2) 本時の展開

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・日本思想の概観 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の流れを確認する。 ・事前学習してきた内容についてグループで共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業までに反転学習で準備させるとともに、個別の思想家に深入りしないように留意させる。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ協議 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人としてのよりよい在り方生き方について、先哲の思想を手がかりに構想し、グループで協働して「日本人の生き方に関する提言」をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全グループが発表できるように、発表の形式をあらかじめ提示する。

		・担当した思想をクラス全体に大まかに説明し、グループでまとめた提言を発表，報告する。	●ワークシート③，発表の様子【思考・判断・表現】
まとめ	・発表内容の確認 ・振り返り記述	・発表内容を再確認し，本時の学習の振り返りを記述する。	・発表活動をする前と後で，自分の考えにどのような変化が生まれたかについて，特に記述するように指示する。

(3) 本時の評価規準

ワークシート③<考察>【思考・判断・表現】

「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例
・日本人としてのよりよい在り方生き方を，先哲の思想を踏まえて構想，考察している。
「十分満足できる」状況（A）と判断される例
・日本人としてのよりよい在り方生き方を先哲の思想や自らの体験を基に構想し，自己が直面する場面や現代の諸課題を具体的に挙げながら考察を深めている。
「努力を要する」状況（C）と判断される生徒の例と教師の指導
・日本人としてのよりよい在り方生き方を構想したり，考察したりしていない。 →先哲の思想を振り返らせたり，自らの体験に気付かせたりしながら，日本人の在り方生き方について再検討させる。

5 評価問題及び評価規準（ワークシート・資料編のワークシート③及び4(3)を参照）

6 成果と課題

「公共」の冒頭の単元から主体的・協働的な学び企画することが，その後の授業スタイルを方向付けていく。「学び方を学ぶ」を重ねていくと，重要語句や概念は生徒が自身で調べるようになるし，まとめたり発表したりする活動は，その素地が中学校までに出来上がっているので，知識を全て網羅する必要はないと割り切ってしまうと，探究的な学習の時間は十分確保できる。主体的な学びが知識の定着を妨げるというのは誤解であるし，自らの学びを調整したり自ら考えようとしたりする姿勢こそ，まさに新学習指導要領の目指すところのはずである。授業中でも生徒が持っているデバイスの使用を認めれば，検索だけでなくプレゼンテーションの作品も簡単に作り上げ，ICT機器を活用して全体に発表ができる点も有効であった。

事前に各班にテーマを割り当て，一定程度の知識理解は事前課題として要請すると，期待以上に十分な準備をしていく傾向がみられた。限られた授業時間の中で生徒の成果を共有するには消化不良の面も否めないが，もし，すべての教科・科目でAL型の授業を行われることになれば，今回の授業程度の準備がどの科目でも求められるようになることが懸念される。授業時間に限りがあるように，生徒の授業時間外の取組時間にも限界があるので，家庭での事前課題に関する調整が必要になってくる。